

韓国「ろうそく革命」と文在寅政権の展望（奥蘭 秀樹）

## アジア・太平洋研究センター主催，総合政策学部共催講演会

日 時：2017 年 12 月 14 日（木）

場 所：Q 棟 1 階 101 教室

テーマ：韓国「ろうそく革命」と文在寅政権の展望

報告者：奥蘭 秀樹（静岡県立大学准教授）



2017 年 5 月 9 日，韓国で第 19 代大統領選挙が実施された。この選挙は，朴槿恵大統領が現職のうちに弾劾，罷免されたために，定期的な大統領選挙日程から 7 ヶ月前倒して実施された。この結果，第一野党であった「共に民主党」の文在寅氏が勝利を収め，第 19 代大韓民国大統領となった。

これを踏まえてこの講演会では，静岡県立大学准教授で現代韓国政治をご専門とする奥蘭秀樹先生をお招きし，「韓国『ろうそく革命』と文在寅政権の展望」をテーマにご講演をいただいた。その要旨は次の通りである。

### 1. 文在寅の勝因

7 ヶ月以上も早く大統領選挙が行われたことが，じつは文在寅には追い風であった。というのも，文在寅は前回の大統領選挙で野党統一候補として朴槿恵に敗れており，早くから次期大統領選挙へ向けた準備に着手していた。また故盧武鉉元大統領の秘書室長として，権力の中核で政権を切り盛りした文在寅の経験は，混乱の早期収束を求める国民に安心感を与えた。与党が分裂し，野党の有力者たちの準備不足が否めないなかで，突然到来した前倒し選挙は，唯一の“準備ができた候補”文在寅に有利

に働いた。

## 2. 「ろうそく民心」と文在寅政権

文在寅の支持層は、弾劾・罷免のきっかけともなった朴槿恵とその友人・崔順実の關係に憤慨した人々であり、彼らの思いは、ろうそくを手にもって抗議の集会を開いたことから「ろうそく民心」と呼ばれた。「ろうそく民心」を味方にした勝利は、政権発足後、大統領が「民心」と疎通し、国民を説得して指導力を発揮できる可能性を感じさせる一方、「民心」に拘束され、柔軟で大局を見据えた政権運営ができなくなる危険性も秘めていた。この二律背反性の中で政権を運営していかなければならないという点で、文在寅には「民心」大統領としての脆弱性があると指摘しなければならない。

## 3. 前途多難の船出と独自色アピールの模索

その脆弱性は、別の言い方をすれば、現職大統領が弾劾・罷免されるなかで、政治が新しく生まれ変わることを熱望する「民心」に対して、選挙戦そのものが最終的には「保守対革新」の対決構図に収斂し、旧態依然とした韓国政治の伝統的な対立構造を克服することができなかったということでもある。そのため文在寅政権は、そうしたジレンマのなかで独自色をどうアピールしていくのかを模索しなければならず、たとえば国際關係については、①対話による南北關係の打開——「当事者である韓国の主導的役割」、②THAAD配備をめぐる対米・対中關係、③日韓戰略的協力關係強化の必要性和“2トラック”外交の推進といった 이슈に見られる通り、独自のバランス感覚で難問を乗り越えようと苦心する姿勢が感じられる。

## 4. 文在寅政権を見る二つの視点

しかし、文在寅政権には、①理念先行型の急進的改革を志向する強硬ラインと、②現実主義的で穏健的改革を志向する柔軟ラインが織りなしており、文在寅政権の政策決定を分析するには、その時々でどちらのラインに比重がかかっているかに注目する必要がある。

## 5. 文在寅政権のスタートダッシュと今後の展望

これまでのところ文在寅政権は、理念・世代・地域をまたぐ高支持率を維持しており、弾劾、罷免された前大統領朴槿恵を批判する脱権威主義の巧みなアピールが功を奏している。しかし、文在寅が目指す内政面での改革は前途多難であり、南北対話の模索や対米・対中「均衡外交」の推進といった国際的な課題も多い。とくに対外的な関係については、2018年2月にピョンチャンで冬季オリンピックが開かれるが、この場で大きな動きがある可能性が高い。スポーツの華麗な競い合いに加えて、政治の動きも注目される大会になるものと思われる。

（文責：星野 昌裕）